伊邪那美命（イザナミノミコト）

イザナギノミコトの妹であり妻。イザナギノミコトとともに、国土、山川草木の諸神を産む。アマテラスオオミカミ、スサノオノミコトの母神。

イザナギノミコトとイザナミノミコトは高天原の神々に命ぜられ、海に漂っていた脂のような国土を固めるべく、天の浮き橋から矛で海をかき回し、出来上がったオノコロジマにて結婚した。国産み・神産みにおいてイザナミとの間に日本国土を形づくる多数の子を儲ける。その中には淡路島をはじめ大八洲（本州・四国・九州等）の島々、石・木・海・水・風・山・野・火など森羅万象の神が含まれる。イザナミが、火の神である カグツチを産んだために陰部に火傷を負って亡くなった。

イザナギは、イザナミに逢いたい気持ちを抑てきれず、黄泉国まで逢いに行った。そこで「決して覗いてはいけない」というイザナミとの約束を破って見てしまったのは、腐敗して蛆にたかられ、八雷神に囲まれたイザナミの姿であった。その姿を恐れてイザナギは地上へ向かって逃げ出してしまう。追いかけてくる八雷神、黄泉醜女、そしてイザナミに、髪飾りから生まれた葡萄、櫛から生まれた筍、黄泉の境に生えていた桃の木の実を投げながら難を振り切った。

その後、イザナギが黄泉国の穢れを落とすために禊を行なうと様々な神が生まれた。左眼からアマテラス、右眼からツクヨミ、鼻からスサノオの三貴子が生まれた。

伊邪那岐命（イザナギノミコト）

イザナミノミコトとともに、国土、山川草木の諸神を産む。アマテラスオオミカミ、スサノオノミコトの父神。

須佐之男命（スサノオノミコト）

アマテラスの弟とされ、海原の神だったが、悪逆非道な行いによって高天原を追放された後、勇猛な善神に変じて出雲国を治めた神。素盞嗚尊、建速須佐之男命、神素盞嗚尊、須佐乃袁尊、神須佐能袁命、須佐能乎命、牛頭天王、祇園様、天王様なども呼ばれます。

天照大御神（アマテラスオオミカミ）

高天原の主神にして皇室の祖神、太陽のような大御神です。伊勢神宮の内宮に祀られ、天照大神、天照皇大神、天照御魂神、天照大日孁貴、神明様、お伊勢様とも呼ばれます。

月読命（ツキヨミノミコト）

アマテラスの弟、スサノオの兄とされています。古事記では、黄泉国より戻られたイザナギが右目を洗った際に生まれ、「夜の食す国（夜が支配する国）を治めよ」と命じられています。

日本書紀では月の神として生まれたとされており、「その輝きは日に次ぐ美しさなので、日と並んで統治すべしと天へ送られた」と記されています。

三貴子（サンキシン）

アマテラスオオミカミ
ツキヨミノミコト
スサノオノミコト

木花咲耶姫（コノハナサクヤヒメ）

コノハナノサクヤヒメは一夜で身籠るが、ニニギは国津神の子ではないかと疑った。疑いを晴らすため、誓約をして産屋に入り、「天津神であるニニギの本当の子なら何があっても無事に産めるはず」と、産屋に火を放ってその中でホデリ・ホスセリ・ホオリの三柱の子を産んだ。この出来事から三柱の名に「火」がつけられたとされている。

ニニギノミコトの妻。オオヤマツミ（山の神）の娘で、姉にイワナガヒメがいる。ホデリ（海幸彦）・ホスセリ・ホオリ（山幸彦）を生んだ。

瓊瓊杵尊（ニニギノミコト）

アマテラスの孫。アマノオシホミミノミコト（※①）の子。アマテラスの命令で、葦原の中つ国を統治するため、高天原から日向高千穂峰に天降ったとされる。コノハナサクヤヒメを妻とした。

磐長姫（イワナガヒメ）

コノハナサクヤヒメとともにニニギノミコトの元に嫁ぐが、イワナガヒメは醜かったことから父の元に送り返された。オオヤマツミはそれを怒り、イワナガヒメを差し上げたのは天孫が岩のように永遠のものとなるように、コノハナノサクヤヒメを差し上げたのは天孫が花のように繁栄するようにと誓約を立てたからであることを教え、イワナガヒメを送り返したことで天孫の寿命が短くなるだろうと告げた。

『日本書紀』には、妊娠したコノハナノサクヤヒメをイワナガヒメが呪ったとも記され、それが人の短命の起源であるとしている。

火須勢理命（ホスセリノミコト）

ホオリの弟、ホデリの兄。

火照命（海幸彦）（ホデリノミコト）

海の漁が得意。別名「海幸彦」

火遠理命（山幸彦）（ホオリノミコト）

山の猟が得意。別名「山幸彦」

日向三代（ヒュウガサンダイ）

ニニギノミコト
ホオリノミコト
ウガヤフキアエズノミコト

鵜葺草葺不合命（ウガヤフキアエズノミコト）

ヤマサチビコとトヨタマヒメの間に生まれた子供。トヨタマヒメの御産のために、鵜の羽根を葺き草に見立てて産屋を作ろうとするが、屋根を葺き合える前に生まれたので、ウガヤフキアエズノミコトと名付けられた。

玉依姫（タマヨリヒメ）

海神の子で、トヨタマヒメの妹である。トヨタマヒメがホオリとの間にもうけた子であるウガヤフキアエズを養育し、後にその妻となって、四人の子を産んだ。末子の若御毛沼命が、神日本磐余彦命（カムヤマトイワレビコノミコト、後の神武天皇）となる。

豊玉姫神（トヨタマヒメ）

海神・大綿津見神の娘。山幸彦と結婚し、ウガヤフキアエズを生むが、出産する際に本来の海神としての姿であるワニの姿を見られたことから恥とし、また約束を違えた夫を恨んで海へと帰った。その後、子供のウガヤフキアエズの養育は妹であるタマヨリヒメが行った。

山幸彦と海幸彦はある日釣具を交換し、山幸彦は魚釣りに出掛けたが、兄に借りた釣針を失くしてしまう。困り果てていた所、塩椎神に教えられ、小舟に乗り「綿津見神宮」に赴く。

海神（大綿津見神）に歓迎され、娘・トヨタマヒメと結婚し、綿津見神宮で楽しく暮らすうち既に三年もの月日が経っていた。山幸彦は地上へ帰らねばならず、トヨタマヒメに失くした釣針と、霊力のある玉「潮盈珠」を貰い、その玉を使って海幸彦をこらしめ、忠誠を誓わせたという。

神日本磐余彦天皇（始馭天下之天皇）（神武天皇）（カムヤマトイワレビコノミコト）

ハツクニシラススメラミコト

日本書紀・古事記に書かれている人物で、初代の天皇とされている。「始馭天下之天皇（ハツクニシラススメラミコト）」と称されている。

高天原から天降ったニニギの曾孫で、兄五瀬命らと話らい東の美しい土地を目指して日向から宇佐・筑紫を経由して瀬戸内海に入り大和をめざした。河内に至り、その地の先住民の長髓彦がおり孔舎衛坂で戦いとなった。戦いは神武一行に不利で兄の五瀬命を戦いで失い、また暴風雨に遭って海神と鎮めようとして稲氷命と御毛沼命の両兄が海中に身を投じた。神武は日の神の啓示により日に向かって戦うことの益なきことを悟り、紀州へと迂回した。その後熊野の荒坂津に上陸して一路大和を目指した。途中ヤタガラス（※②）らの導きもあってようやく畿内大和に入った。そこで長髓彦と戦いになったが饒速日命が神武を天神の子孫と認めて長髓彦を殺して帰順したのでようやく戦いは収まった。しかし、神武の行く手はまだまだ困難が伴った。橿原宮で即位して初代天皇がここに誕生した。

（※①）天降って中つ国を治めるようアマテラスから命令されるが、下界は物騒だとして途中で引き返してしまう。タケミカヅチらによって大国主から国譲りがされ、再びオシホミミに降臨の命が下るが、オシホミミはその間に生まれた息子のニニギに行かせるようにと進言し、ニニギが天下ることとなった。頑なに降臨を断った神で知られる。

（※②）日本神話において、神武天皇を大和の橿原まで案内したとされており、導きの神として信仰されている。また、太陽の化身ともされる。